

居合道 だより

第177号





はじめに

コロナ禍が続く中、2回目の桜の時期を迎えた。ここ数年の異常気象にも負けず、人類の苦難も関係なく、粛々と気候の移り変わりを察知し、見事な花を咲かせ我々を楽しませ、次の世代に命をつなぐ役目を終えると潔くパッと散っていった。

拙宅の庭に榎やモミジの老木がある。その周囲の苔むした場所には、たまにそれらの種が落ちて萌えているときがある。実生である。その健気さに引き抜いた後、ついで他の場所に移植したりしていた。その若木がすでに3メートル以上に育ったものもある。

ただでさえ雑然と庭木が多すぎて困っているのにである。

ずいぶん前の話だが、幼い頃から窓越しに眺めてきた雷山から流れ出る雷山川の源流を探してみようと、山をうろついていた時期があった。あるときそのひとつの小さな溪流に、またぐようにして苔に覆われた倒木が横たわっているのを見つけた。

それ自体はたまに見かける風景だったが、何とのその朽ちかけた倒木の上に鉛筆くらいの幼木が1本芽吹いていたのである。

その後、その様子を写真に撮っておかなかったことを何度も後悔した記憶がある。

そして昨年、コロナ禍の中で何気なく開いたネットの屋久島原生林の紹介の中に、同じような景色を見つけた。次の写真では、大きな杉がその根元にぽっかり穴が開いた状態で雄々しくそびえ立っていた。

そのぽっかり空いた穴の部分は、かつて倒れて朽ちかけた大杉が横たわっていた。そしてその上に芽生えた幼木が朽ち木を栄養分にして成長し、朽ち木をまたぐように大地に根を張り、親木よりも大きく成長していった。朽ち木は大地に還っていった。その証である。

原生林は密集した巨木が四方八方に枝を広げていて、種が地上に落ちてても太陽の恵みを受けられずに育たない。しかし巨木が何らかの原因で倒れたらその箇所だけぽっかりと青空が覗く。運良くその倒木に着床した種は朽ち木の栄養と太陽の恵みを受けて育っていく。命を終えた巨木は倒れることによって種に太陽の恵みを与え、自分自身を栄養分として萌え木を自身をも超える巨木へと育てていくのである。

こうして屋久杉は営々と次の世代へと受け継がれていく。
倒木更新である。

突然ですが、小生がこの欄を担当してから来月で丸九年になる。次号を小生の最終刊とします。

生来の浅学非才に加えての怠け者、計画性のなさで毎回何を書こうかと悩み、はじめの頃は編集者に愚痴をこぼしたり弱音を吐いたりもした。そんな時、編集者が『先生、2～3ヶ月分書きためておけば良かじゃなかですか、そうしたら楽ですよ。』とほざいた。『バカたれが！そげなこと出来るくらいならはじめから悩まんたい。』と漫才みたいなやりとりもあったが、いつもどうにか締め切りギリギリになって、まさに泥縄でなんとか体裁を繕ってきた。

読者の皆様にはなんと失礼なことであったかと、今更ながら反省しきりである。

考えてみれば前もって何かを決めて書こうと思ったことはなかったかもしれない。しいて言えばこの回と次号くらいかも。

しかし一貫して書こうと思ったテーマは、ただ一つ、剣友達へのエールだった。

道に励め。強くそして優しく生きよ。師を超えていけ！

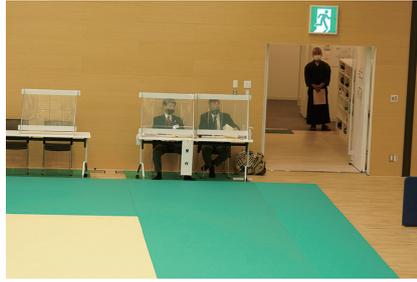
6月号からは『居合道だより』のタイトルだけはそのままで、剣友の皆さんが紙面を一新し、より楽しく役に立つ取り組みを始めてくれるはずである。どうか楽しみにしていただきたい。

長い間、お付き合いくださいましたたくさんの皆様方に心より感謝を申し上げ、皆様方の益々のご発展をお祈り申し上げます。

主な活動

3月7日(日) 福岡県居合道段位審査会全剣連

福岡市総合体育館



四月・五月の予定

4月10日(日) 剣道・居合道・杖道称号「教士」筆記試験

福岡市総合体育館

5月3日(月・祝) 居合道八段審査会

京都市

未定

居合道部理事会・総会

未定

© 公益社団法人 福岡県剣道連盟・福岡県剣道連盟 居合道部

第177号 令和3年4月発行

発行：福岡県剣道連盟居合道部

URL：<http://riai.info/>

発行人：井手友太

〒819-1132 糸島市有田36番地-1

TEL:092-322-0847

編集：有限会社FEW